

PETイメージングに役立つ 新しい反応の開発



丹羽 節 先生

理化学研究所 生命機能科学研究センター(BDR)
分子標的化学研究チーム 副チームリーダー

平成31年度 文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞者

日時:2019年11月12日(火)16時~17時30分

場所:信州大学農学部伊那キャンパスA講義棟12番講義室



インタビュー記事

理研BDRでは、ヒトにも適用可能な分子イメージング技術の一つである陽電子放射断層撮像(PET)に着目し、その高度化と生命科学研究への応用を進めている。講演者も様々な分野の研究者と協力し、PETによる多彩な生命現象の可視化を目的としたPETプローブの開発に取り組んできた。PETプローブは、炭素11やフッ素18などの陽電子放射核種(PET核種)を用いた、生物活性化合物の標識により得られるが、これらの核種の寿命が短いため、短時間で化学結合を形成する標識技術が重要になる。一方、理研における共同研究を通じ、PETプローブ開発の推進には、標識技術の高度化のみならず、安定同位体を用いた一般的な反応開発も有効であることがわかってきた。本講演では、PETプローブ開発の効率化を念頭において、我々のチームが進めた反応開発について、最新の成果を交えて発表する。

連絡先:喜井 勲(創薬標的科学研究室)
ikii@shinshu-u.ac.jp (内線2451)